

△「福島文學士著『兒童の模倣』」

編 者

嘗て本誌第七號に『教育上から見た子供の模倣全盛期』といふ有益なる論文の掲げられたことは、讀者諸君の記憶に未だ新しいことと思ひます。

彼の一篇は、實は當時丁度印刷中の同氏著『實踐教育上より見たる兒童の模倣』の原稿の中から、特に乞ふて頂戴したのでした。今其の印刷全く了り通俗學藝叢書第一編として出版せられたるに際し、之れを諸君の前にすゝめざるを得ないのであります。

元來すべての教育に兒童の模倣の深く研究せらるべき必要あるは言を俟たないのであります。幼兒教育に於ては、わけても最も重要なこととであります、之れを明かにせず、之れを善用することを怠つて、完全なる幼兒教育を行はんことは、到底期することが出來ないのであります。家庭に

於て然り、幼稚園に於て亦然り、實に模倣は幼兒の發達の武器でありまして、以て善用せらるべく、又屢々悪用せらるゝ處のものであります。あなた幼稚園に於ては、果して如何に善用せられて居りますか、又悪用せられては居りませんか。然り而して、あなたはよく彼等の此の武器に就て正確にして詳細なる知識を有して居りますか。

教育に模倣の重要なるは昔から何人も説く處であります。しかし、此書の著者も説いて居らるゝ通り、之れを深く心理作用の奥まで立ち入り、又實祭上の詳細な指針を與へて居る人は、あまり無かつたのであります。本書はもと通俗平易を期して必ずしも科學的に論述せられてあるのではありませんが、しかも、模倣の心理及び教育を説くこと最も懇切、教育研究上の此の缺陷を補へる、恐らく唯一の書といつてよからうと思ひます。殊に、著者がどこ迄も教育に於ける教師の人格の貴重を力説して、之れと模倣の心理とを結び、實踐教育

の第一問題を明らかにせられたことは、本書の讀者にとつて、最も有益なる點と信するのであります。

章を分つこと十二、頁數三百二十四、行文流麗にして叙述懇篤。近來往々にして粗雜不親切なる

出版物尠からざる中に、實に稀に見る眞面目なる

好著といふべきであります。時恰かも燈下書に親しむべきの候、之れを廣く諸君の机上にすゝめ度いと思ふのであります。

(定價金一圓二十錢、東京日本橋區大傳馬町内田老龜園刊行)

保育入門 (九)

倉橋惣三

九、幼稚園教育の方法

第三、其の手段

(一般論——音樂論)

自發遊戯を其の基本とし、遊具を其の材料とする幼稚園教育法の研究は、すなはち其の適當なる手段の研究である。而して其の目的を達するに有益なりと認むるあらゆる手段を採り用ひて怠るまじきである。

幼稚園教育上の手段に就て、往々にして左の如き誤解が行はれることがある。先づ之れを匡して置かなければならない。

(一) 幼稚園教育法の各項目として行はるゝ處のものは、學校教育に於ける教科とは大に性質を